

ハブハブハー

ハブハブハーへ

3年 S・Sさん

ぼくはブハーのことを本で読んで、ブハーといろいろなお話をしてみたくなったよ。だから、お話したいことを手紙にするね。

昔は、どくがあったせいでなかまはずれにされていたよね。でも今は、ほかの生きものたちと自分だけがうだけなんだと、ありのままの自分を受け入れられることができるようになったんだね。すごいことだとぼくは思うよ。ぼくは、なかなか自分のありのままを受け入れることがまだできないんだ。ぼくはメガネをかけているんだけど、クラスでメガネの友だちは、少ないんだ。ほかの友だちはメガネをかけずにすごしているのに、ぼくはかけなきゃいけないからいやだなあと思うときがあるよ。ぼうえんきょうを見る時メガネがじゃまで見にくいし、お風呂に入る時もメガネがないと見えにくいんだ。メガネがあつていやなこともあるし、ないと困ることもたくさんある。

でも、メガネがぼくをたすけてくれることも多いよ。けっこう気に入っている所もあるんだよ。

たとえば、おにちゃんと同じ所。兄弟でおそろいだからね。色も同じなんだ。ほかには、じゅぎょうで黒板が見えないのはふべんだし、大きなブロックを作るのにもふべんだからね。あとは、メガネの鼻の部分にタオルをはさむとマスクのかわりになるんだよ。とってもべんりでしょ。たまにメガネをあらいわすれておかあさんにおこられちゃうけどね。ブハーが、自分のどくを使って山犬たちからルリカケスとハリネズミとクロウサギをたすけたみたいに、ぼくのメガネもわるいことだけじゃないんだ。

そう考えると、ぼくもブハーみたいに、いやな所もほかのみんなとぼくはちがうだけなんだって思える気がしてきたよ。

まだまだぼくは、ブハーみたいに、かんぜんにぜんぶを受け入れられないけれど、ちよつとずつわるくないかもって思えるようになってきたよ。ブハーがいいお手本になってくれたからだね。ぼくもブハーみたいになれるように、これからもメガネとなかよくつきあつていくよ。